

平成 2 7 年 度 学 校 評 価 実 施 報 告 書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>〈教育課程〉</p> <p>○教育相談・支援教育の視点からの展開を具体化し、幅広い学習ニーズに対応した多様で柔軟な教育を実施する。</p>	<p>①補習・講習を充実させ基礎学力の定着を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路希望に応じた柔軟な学習指導を行い、ガイダンスの充実を図る。</p> <p>③グループと各教科が連携し、生徒一人ひとりの学習ニーズに対応するための教育課程編成を行う。</p> <p>④生徒一人ひとりに応じた進路指導を入学時から充実させる。</p> <p>⑤進路実現のための学習支援を充実させる。</p> <p>⑥ユニバーサルデザインの視点による授業展開を工夫する。</p>	<p>①基礎学力の定着や、学習意欲の向上は見られたか。</p> <p>②生徒の実態やニーズに応じた補習や講習を行ったか。</p> <p>③生徒の幅広い学習ニーズに対応できたか。</p> <p>④進路実現のためのきめ細かな指導ができたか。</p> <p>⑤同上</p> <p>⑥具体的な工夫が実践できたか。</p>	<p>①夏期講習・補習では 12 講座で 79 名の参加者があり前年比 3 割増となるなど、学習意欲向上や基礎学力定着に成果を上げつつある。</p> <p>②各 HR においては生徒一人ひとりのニーズに応じた指導を行い、各学年で選択説明会を実施し各教科より説明を行い、間違った選択をしないようにきめ細かく指導を行った。</p> <p>③各教科と連携を取りながら、生徒一人ひとりの学習ニーズに対応できるような教育課程の編成を行った。</p> <p>④⑤「総合的な学習の時間」において、様々な進路ガイダンスを実施し、自分の進路をイメージさせるよう工夫した。</p> <p>⑥ 授業展開の参考になるよう、ユニバーサルデザインの視点について、飼料をもとに研修を行った。</p>	<p>①夏期講習の事前周知を時間をかけて丁寧に行い、申込者を増やすよう工夫する。</p> <p>②選択科目説明会は 6 月～7 月に実施し選択科目希望票を 9 月に提出するが、その後の進路変更に係る選択科目変更の手続きの方法に課題が残る。</p> <p>③県立高校改革実施計画における「確かな学力育成推進校」の指定を受け、学び直し学習や少人数指導等を取り入れた教育課程の編成について検討する。</p> <p>④⑤進路をイメージさせるためには、自己理解を深め、体験学習などを充実させる必要がある。</p> <p>⑥ユニバーサルデザインの視点を持った授業を展開する意識はまだ高まっていない。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>○義務教育では、子どもによって理解度に差があるという前提で授業のユニバーサルデザイン化を行っているが、高校でも行っていると聞き、感心した。</p> <p>○授業を受けている生徒のために、授業の目当てや目標を板書するとう取組みを高校でも行っているということに感動した。</p> <p>○中学校の担任が自信を持って紹介できるような永谷高校の魅力というものを発信してほしい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○授業の面においては、「わかる授業」、「興味がわく授業」をテーマとして授業研究・授業改善に取り組み、基礎力の定着と学習意欲の向上に職員一丸となって取り組むことができた。</p> <p>○夏期講習受講者が大幅に増加し、出席率も高まった。</p> <p>○ユニバーサルデザインについては、黒板に今日の目標を書くなどの取組みを取り入れ始めたところであるので、次年度は更に推進していく。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○シチズンシップ教育などの成果もあらわれており、今後は「学び直し」などともに、学校のセールスポイントとなるような実践にしていく。</p>

<p>〈生徒指導・支援〉</p> <p>(1)生活指導と教育相談の一体化により、生徒の気持ちを受け止め、温かくなかっ厳しい毅然とした指導を展開し、自己指導能力を育成する。</p> <p>(2)教育相談担当グループと教育相談学年担当の連携により、個別の支援を充実させる。</p>	<p>①チャイム始業に努め、授業及び集会におけるマナー指導をより充実させる。(1)</p> <p>②校内巡回の継続により、良好な学習環境を維持する。(1)</p> <p>③服装指導を強化し、その他全般における段階的指導を確実に実行する。(1)</p> <p>④頭髪指導の方法について検討する。(1)</p> <p>⑤教育相談コーディネーターと各学年の教育相談係による会議を開催し、その機能の充実を図る。(2)</p> <p>⑥保護者連絡、二者面談、三者面談を適切に使い分け、適宜・確実に実施する。(2)</p> <p>⑦あらゆる指導機会において、カウンセリングマインド(進路相談の精神)の発揮(一次的援助サービスの充実)に努める。(2)</p> <p>⑧生徒会、委員会、部・同好会活動および永陵祭、球技大会等の行事において、生徒が活動に取り組みやすい環境づくりに努める。(1)</p>	<p>①規律ある高校生活の一層の充実を図れたか。</p> <p>②同上</p> <p>③同上</p> <p>④成果につながる検討ができたか。</p> <p>⑤一人ひとりの生徒理解に基づく個に応じた生徒指導・教育相談・生徒支援の充実を図れたか。</p> <p>⑥同上</p> <p>⑦同上</p> <p>⑧様々な活動に取り組みやすい環境づくりに努めたか。</p>	<p>①チャイム始業はおおむね守られているが、集会時のマナー向上には課題が残る。</p> <p>②各学年ごとに校内巡回を実施し、良好な学習環境の維持に努めた。</p> <p>③月間行事予定に制服指導強化日を設定する等指導の充実を図った。</p> <p>④検討は継続してきたが具体策にいたっていない。</p> <p>⑤教育相談コーディネーター、養護教諭、学年の教育相談担当が密に連携し、スクールカウンセラーに繋げ効果をあげるなど、生徒支援の充実を図ることができた。</p> <p>⑥保護者連絡や面談を効果的な使い分けがある程度はできた。</p> <p>⑦カウンセリングマインドを常に意識して主に生徒指導に当たることができた。</p> <p>⑧新入生部活オリエンテーション(4月)や入部キャンペーン(9～10月)を行い、部・同好会への加入を呼びかけた。</p> <p>⑨夏季休業前に緊急時対応研修会(心肺蘇生とAED取扱い実習)を実施し、部活動中の不測の事態の対応に備えた。</p>	<p>①特に集会時のマナー向上を全職員が指導できる体制作りにも努める。</p> <p>②生徒自身がよりよい学習環境を作り出すとする雰囲気作りが必要である。</p> <p>③服装指導の徹底については、全職員が協力して徹底できていない点で課題が残る。</p> <p>④具体案にいたる検討を次年度も継続していく。</p> <p>⑤自分自身や家庭に課題を抱える生徒が多い本校の実態を鑑みると、スクールカウンセラーの勤務時間を増やす必要がある。</p> <p>⑥保護者や生徒の連絡をさらに確実に適切に行うことで教育的効果の向上を図る。</p> <p>⑦カウンセリングマインドの意識の向上を図り生徒指導以外の機会においても発揮することで指導の充実を期す。</p> <p>⑧部活動加入率は県の目標を大幅に下回っている。入部を促進し、有意義な部活動を展開できる環境づくりの工夫が必要である。</p> <p>⑨この研修会は次年度生活支援グループ担当となるが、部活動指導中の安全な環境確保のために活動支援としても協力していきたい。</p>	<p>〈学校評議員〉</p> <p>○生徒会の希望者が少ないという話を聞いているが、キャリア能力や積極性が身に付くなどの面を強調して、立候補者を増やすとよいではないか。</p> <p>○地域とのつながりに部活動の果たす役割は大きいですが、顧問の負担も大きいと聞いている。顧問を引き受けるデメリットを減らすことが大切である。</p>	<p>〈学校評価〉</p> <p>○職員が一丸となって取り組んだ成果が現れ、チャイム始業は概ね守られてきている。</p> <p>○制服着用指導を強化し、機能していなかった再登校指導を復活させ、一定の成果を上げることができた。</p> <p>○教育相談コーディネーターを中心とした校内の情報共有を活発に行い、様々な問題を抱えた生徒の支援を適切に行うことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○平成29年度には頭髪指導も導入する予定であり、より一層規律ある学校生活の実現に向けて、職員一丸となって取り組んでいく。</p> <p>○部活動の加入率が低下しており、団体競技で他校との合同チームとなっている部もあるため、より魅力ある活動を提供し、加入率を高めていきたい。</p>
--	--	--	---	---	---	---

<p>〈学習指導・授業改善〉 反復練習・暗誦等と表現活動等言語活動のバランス良い展開により、基礎的な知識・技能を定着させ、思考力・判断力を育成する。</p>	<p>①学び直し教材の効果的な活用を図り、基礎学力の育成に努める。 ②講義形式の短時間化を図り、反復練習・暗誦等と表現活動等言語活動（記録、要約、説明、論述、討論等）を授業の中に積極的に取り入れる。 ③「わかる授業」、「発表を取り入れた授業」の2本柱を年間の授業研究のテーマとして設定するとともに、年2回の教員相互の授業参観、研究授業、研究協議等を実施する。 ④定期テストの共通問題率の向上を図り、組織的に授業を改善する。</p>	<p>①学び直し教材の活用法を工夫し効果を上げることができたか。 ②基礎的な知識や技能の定着を図ることができたか。 ③生徒による授業評価において、該当する項目の評価に改善が見られたか。 ④定期テストの共通問題率は向上したか。</p>	<p>①学び直し教材の実施方法や活用方法を教科の裁量で工夫したことで、効果を上げつつある。 ②多くの教科で反復練習・暗誦等と表現活動等の言語活動を授業の中で実践し、基礎的な知識や技能の定着を図るよう努めた。 ③教員相互の授業参観と研究授業・研究協議を6月と11月の2回実施し、全教員が授業改善に取り組んだ。生徒による授業評価では、すべての項目において、第2回目の評価が第1回目の評価を上回った。 ④全教員を対象に意見聴取のためのアンケートを実施し、その中で出された課題を解決する方策について各教科で話し合いの場を設定した。平成29年度からの完全実施に向けて、平成28年度を準備期間と捉え、今後の取組の方向性を示した。</p>	<p>①生徒アンケートでは教材活用に対して高評価を得たが、年間指導計画の中では教員にとって負担感が大きく、さらなる工夫が必要である。 ②達成率を上げるためには、授業改善に係る研修会を実施するなどして、講義形式の短時間化に努めていく必要がある。 ③実施方法が確立されて来た反面、内容が硬直化しつつあるので、新たな内容も視野に入れた検討が必要である ④平成29年度からスムーズに完全実施に移行できるように、更に準備を整えていく。</p>	<p>(学校評議員) ○早稲田大学の合格者が出たことは卒業生の間で大きな話題となった。このようなことがあると、母校に対する愛着もわくのではないかと思う。 ○定期テストの共通問題率が100%に届かないようであるが、問題をテストの直前に作ると生徒を引っ張り上げる意識が弱くなる。共通化して事前にテストを作っておくことで生徒を引っ張り上げる意識が強まり、よい効果生まれる。</p>	<p>(学校評価) ○国・数・英3教科での学び直し教材導入2年目であったが、生徒アンケートによると高い評価を得ることができた。 ○定期テストの共通問題化について校内で議論を深め、平成29年4月から完全実施(100%共通化)とすることとした。  (改善方策等) ○平成28年度から始まる県立高校改革実施計画における「確かな学力育成推進校」として、更に効果的な学び直しの方法を研究し、推進していく。</p>
--	---	--	--	--	---	---

<p>〈キャリア教育〉          教科学習、総合的な学習の時間、特別活動、部活動、インターンシップ、ボランティア活動、その他体験活動の充実により、社会参画の意欲を向上させ、思いやる力を育成する。</p>	<p>①高大連携・高専連携を推進する。          ②インターンシップ等への参加を促し、事前指導を充実させる。          ③様々な生徒会活動・行事において、生徒の取組みを組織的にサポートすることにより、責任感・社会性・協調性を育成する。          ④総合的な学習の時間の年間計画の見直しをLHR計画の見直しとともにに行い、キャリア教育及びシチズンシップ教育並びに道徳教育を一体化させて実施する。          ⑤社会見学や修学旅行をキャリア能力育成の視点を取り入れながら実施できるよう、担当グループと学年間の連携を図る。          ⑥キャリア教育実践プログラムの改善により、日常の教育活動とキャリア教育との関係の意識化・自覚化（キャリア教育の体系化）を図る。          ⑦授業改善を通して、教科学習とキャリア形成との関係の意識化・自覚化を図り、学習意欲及び社会参画の意欲を向上させる。</p>	<p>①体験プログラム等に積極的に参加できるように促すことができたか。          ②インターンシップに多くの生徒を参加させ、事前事後指導を充実させることができたか。          ③組織的に生徒の取組みをサポートできたか。          ④アンケート等において、キャリアやシチズンシップに関する意識や能力に高まりが見られたか。          ⑤同上          ⑥プログラムは改善できたか。改善による効果が表れたか。          ⑦④⑤と同じ。</p>	<p>①公務員受験対策講座を受講する生徒が横ばい状態であった。積極的に参加できるような企画を今後もある必要がある。          ②インターンシップなどの参加者（32名）は昨年度とあまり変わらないが、単位申請する生徒（10名）が増えた。          ③生徒会本部や委員会活動ではそれぞれが業務に協力し取り組む姿勢が見られた。          ④文化祭や球技大会ではクラスで協力して活動に取り組む様子が見られた。          ⑤夏休みの学習ボランティアや港南区のはまっこボランティアやジャズイベントなどへの参加を促した。          ⑥キャリア教育及びシチズンシップ教育を一体化させた年間計画を作成し、意図的・計画的に実施した結果、生徒対象のアンケートにおいて、意識の高まりが見られた。          ⑦キャリア教育の視点を取り入れて実施したが、事後のアンケート等については十分な対応ができなかった。          ⑧キャリア教育実践プログラムを大幅に改善し、日常の教育活動をキャリア教育の視点から捉え、意識化・自覚化して実施することができた。          ⑨教員相互の授業参観や研究授業をとおして、教科学習とキャリア形成の意識化・自覚化を図った。</p>	<p>①②さらに、生徒の進路意識を高めるため、周知や実施の方法を工夫し、生徒が意欲を持って参加しやすい体制をつくる必要がある。          ③生徒がより主体的に責任感を持って活動できるように事前指導を徹底し、支援を続ける。          ④ボランティアへの積極的な参加を呼びかけ、生徒の取組を全職員でサポートする体制をつくる必要がある。          ⑤18歳選挙権導入を踏まえて、3年間のシチズンシップ教育の研究の成果を活かし、政治参加教育に引き続き取り組む。          ⑥キャリア教育の視点を踏まえた実施内容について、研究する必要がある。          ⑦日常の教育実践をキャリア教育実践プログラムに明確に位置づけ、キャリア教育の体系化を図る。          ⑧学習意欲の向上については生徒による授業評価にも成果として現れているが、社会参画の意欲について検証する方法については不十分と捉え、引き続き検討していく。</p>	<p>（学校評議員）          ○進路指導において、大学を比較する手段として、退学率や就職率などの情報公開のデータを有効に活用するとよい。          ○「すべての教育活動がキャリア教育である」というのはとてもよい言葉だと思う。          ○今年の卒業式は「よい卒業式を作り上げよう」という気持ちが伝わってくる卒業式であり、とてもよい卒業式だったと聞いている。          ○災害発生時に高校生の果たす役割は大きいと思う。将来的に、地域の柱になれるような取組を推進してもらえると有り難い。          ○18歳選挙権との関係だと思うが、生徒会において興味深い取組をしているので、地域も参加したいと思っている。</p>	<p>（学校評価）          ○学校で行われるすべての教育をキャリア教育としてとらえ直し、職員一人ひとりが自らの取組みに対する肯定感を高めることをねらいとして、キャリア教育実践プログラムを改善した。          ○様々なアンケートの結果において、キャリア教育やシチズンシップ教育による生徒の意識の高まりが見られた。          ○インターンシップにおいて、単位認定を申請する生徒が増え、意識の高まりが見られた。          （改善方策等）          ○学校で行われるすべての教育がキャリア教育である、という視点が未だ全職員に定着していないため、平成28年度も引き続いて周知を図っていく。</p>
---	---	--	--	---	---	--

<p>(地域等連携) 近隣の町内会・自治会・中学校・小学校等との協働・連携により、学校教育活動を充実させ、地域に貢献し、地域の一員としての自覚を育む。</p>	<p>①生徒会、委員会、部・同好会を中心に、学校主催の地域清掃並びに地域主催の地域貢献活動等各種イベントへ積極的に参加する。 ②近隣の小中学校との連携による地域貢献活動を推進する。</p>	<p>①地域貢献の様々な活動を推進できたか。 ②近隣の小中学校との具体の連携が実現したか。</p>	<p>①地域清掃活動は美化委員会を中心にいくつかの部および有志も参加し実施できた。また、吹奏楽部は地域の祭礼への参加や地区ケアプラザ・保育園を各2か所で開催演奏を行い、地域連携活動に貢献できた。 ①平戸永谷川クリーンアップ(5・10月)、港南ガーデン自治会一斉清掃(6・11月)などに、多くの生徒・保護者・教職員が参加し、地域に貢献した。定期試験最終日の地域清掃に、多くの生徒が主体的に参加した。(参加人数:5月208名、7月223名、10月全員、12月108名、3月118名) ②芹が谷小学校の夏期補習に、学習ボランティアとして生徒が10名参加し、児童の学習活動を支援した。2月8・10・12日、永谷小学校と連携しあいさつ運動を行った。(生徒会7名、一般生徒1名参加)</p>	<p>①次年度も生徒会本部、部・同好会、委員会を中心に、積極的に地域連携活動を推進する。地域貢献活動に生徒達が積極的に参加できる呼びかけ方法を工夫する。 ①P T A担当として保護者の協力を得るだけでなく、教職員の参加も呼びかける。 ②今後も連絡を密に取りながら、連携を深めて実施していく。</p>	<p>(保護者) ○学校評議員会に参加して、学校の取組みを再確認することができた。 ○P T Aとして、地域との関わりを大切にしてきた。今後も更に連携を深めていきたい。(学校評議員) ○学校説明会は、今年度のように12月にやってもらえると間際まで迷っている生徒にとってはありがたい。 ○外部との交流を積極的に行い、その成果を発信してもらえれば、地域も協力しやすいのでは是非お願いしたい。 ○学校の活動が地域に知られれば、ボランティア参加者が自信をつけることができる。 ○30周年記念式典において、校長が「地域とのつながりを大切にしていきたい」と話していたが、地域としても同じことを考えていたので大変嬉しく思った。 ○住民の意見を学校に伝えた時に、迅速に対応してもらえるので感謝している。 ○小学校との学習連携はよい取組みであると思う。 ○吹奏楽部の中学校での「ふれあいコンサート」は、中学生にとってよい刺激になっている。 ○永谷高校の魅力を地元密着で発信してくれると、地域の子ども達が理解を深めることができ、よいのではないかなと思う。</p>	<p>(学校評価) ○地域に貢献するだけでなく、生徒一人ひとりにとってもボランティア精神が醸成されるなど、様々な成果を得ることができた。 ○芹が谷小学校での夏休みの学習ボランティアは、参加した生徒にとってもよい自信となっており、非常によい取組みである。今後も継続していきたい。 ○12月に実施した第3回目の学校説明会の参加者が少なかった。  (改善方策等) ○中学校への意見聴取を行い、第3回目学校説明会の日程について再検討する。</p>
---	--	---	---	---	---	---

<p>(学校管理・運営)</p> <p>生徒を送り出す実社会の一部としての学校であることを十分に自覚し、指導力向上、環境整備、広報活動、事故・不祥事防止等に取り組み、学校運営を意欲的に改善し、学校を適切に管理する。</p>	<p>①学校目標の「具体的な手立て」をボトムアップにより作成し、学期ごとの中間評価を実施し、職員の意識高揚を図る。</p> <p>②学習評価の客観性や信頼性を高めるための研究を行い、その成果を校内研修会等において職員間で共有する。</p> <p>③不祥事ゼロプログラムの改善により、日常の取組みと不祥事防止の関係を意識化・自覚化することで職員の意識高揚を図り、適切に学校を運営する。</p> <p>④職員会議を中心に据えながら、不祥事防止研修の機会を可能な限り多く設けて職員の意識高揚を図り、適切に学校を運営する。</p> <p>⑤PTAの環境整備委員会の活動や定期テスト前の大掃除等から、一般的に学習環境の改善を図り、落ち着いた雰囲気の中で教育活動が適切に行われるようにする。</p> <p>⑥学校公式ホームページの改善を図る。</p> <p>⑦「方針の確認」を徹底することで、事務の効率化を図る。</p>	<p>①ボトムアップにより作成できたか。学期ごとに評価できたか。職員の意識が高まったか。</p> <p>②学習評価に対する職員間の共通理解が深まったか。</p> <p>③プログラムが改善され、職員の意識が高まったか。</p> <p>④不祥事防止研修の機会が増加し、職員の意識が高まったか。</p> <p>⑤一般的な学習環境の改善は図れたか、また、教育活動がより落ち着いた雰囲気の中で行われたか。</p> <p>⑥ホームページが改善されたか。</p> <p>⑦「方針伺い」「方針の共有化」が行われたか。</p>	<p>①「具体的な手立て」をボトムアップにより作成し、職員の意識を高めることができた。</p> <p>②情報収集に留まり、職員に発信することはできなかった。</p> <p><b>【研究開発】</b></p> <p>③入学者選抜に関する業務について、事前の打合せや説明を徹底し、事故防止に努めた。</p> <p>④職員会議において、入学者選抜を題材とした不祥事防止研修会を実施し、職員の意識高揚を図った。</p> <p><b>【学事・教務】</b></p> <p>③「試験問題作成に係る事故防止」、「成績処理に係る事故防止」、「通知表の作成・配付に係る事故防止」、「生徒指導要録作成に係る事故防止」に関する研修会を実施し、主要な項目についての周知徹底を図ることができた。</p> <p><b>【生活支援】</b></p> <p>③服装指導、遅刻指導、段階的指導等あらゆる指導においても生徒の人権に配慮した教育的指導に努めた。</p> <p>④不祥事防止研修会において修学旅行期間の問題行動への対応やいじめに関する研修を行い教員の意識高揚を図った。”</p> <p><b>【活動支援】</b></p> <p>③「部活動補助金の執行手続き」「永陵祭の会計処理」について、その方法や注意点の説明を不祥事防止研修会で行った。</p> <p><b>【キャリア】</b></p> <p>③調査書の発行手順や指定校推薦一覧や会議等を、分担して慎重に事故なく取り組むことができた。</p>	<p>①中間評価を2回計画していたが、日程の関係で1回しか実施できなかったため、次年度は評価の方法について再度検討する。</p> <p>②来年度への継続課題としたい。</p> <p>③④生徒・保護者への信頼を損なうことのないよう、今後も定期的に繰り返し啓発のための研修会を行い、教職員に問いかける機会を設ける必要がある。</p> <p>⑤日常の清掃活動への取組に差がみられるため、キャリア教育の視点からも生徒の清掃活動を充実させる必要がある。</p> <p>⑥各グループにHP担当を設置し、各グループでHP原稿を作成することにより、さらに広報活動を充実させる。</p> <p>⑦業務のスムーズな進行を図るためには、主・副担当が事前に仕事内容を確認し共有しておくことが必要である。</p>	<p>(学校評議員)</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○不祥事防止研修会の実施方法を改善し、各グループが主体となって実施した結果、職員全体で取り組むことができた。</p> <p>○学校の事故の多くは教務関係のものであるが、本校ではその点については無事故であった。</p> <p>○入学者選抜における業務要項を大幅に改善し、多数の目で確認しながら業務を進めることにより、ミスのない選抜業務を行うことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○生徒による清掃活動を活性化させ、より一層の校内美化を目指す。</p> <p>○職員一人ひとりが事故や不祥事に対する意識を高めるとともに、複数の目で確認する体制をより一層整備していく。</p> <p>○より迅速かつ適切なホームページの更新を行うため、各グループにホームページ担当者をおく。</p>
---	--	--	---	---	----------------	--

**【学校管理】**

- ③プログラムがより具体化し、日常の取組みの不祥事防止への意識が強まった。
- ④研修の機会が増え、多くの情報に触れる中で職員の意識を高めることができた。
- ⑤職員やP T Aの協力の下、全般的な改善が図られた。
- ⑥速やかな更新が行われた。
- ⑦コミュニケーションをとる中で、円滑に事務処理ができた。

**【活動支援】**

- ⑦文化祭の異装指導では、方針に沿った具体案の提示が遅れ職員・生徒を混乱させてしまった。

**【全グループ】**

- ⑦「方針の確認」を確実にを行い、事務の効率化を図ることができた。